



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年11月13日

上場会社名 株式会社和心 上場取引所 東
 コード番号 9271 URL <https://www.wagokoro.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 森 智宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 宮原 優 TEL 050-5243-3871
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,012	△55.9	△680	—	△671	—	△792	—
2019年12月期第3四半期	2,297	13.8	△23	—	△16	—	△17	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△274.86	—
2019年12月期第3四半期	△6.34	—

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,375	347	25.2
2019年12月期	2,041	972	47.6

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 347百万円 2019年12月期 972百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—		
2020年12月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年12月期の業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

2020年12月期の業績予想については、現時点で合理的な算定が困難なため、開示しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「会計上の見積りの変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	3,051,300株	2019年12月期	2,818,700株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	一株	2019年12月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	2,884,066株	2019年12月期3Q	2,817,874株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

新型コロナウイルス感染症が拡大している現状においては日々状況が変化しており、現時点では業績に与える影響が未確定な要素が多いことから、2020年12月期業績予想への影響を合理的に見積もることは困難であります。業績予想の算定が可能となった時点で速やかにお知らせいたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(第3四半期累計期間)	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(追加情報)	6
(株主資本等関係)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受けて、景気は依然として厳しい状況にあります。先行きにつきましては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善により、持ち直しの動きが続くことが期待されます。

当社の属する小売・サービス業界におきましては、消費税増税等の影響により個人消費が低迷していた上、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、外出自粛要請・緊急事態宣言により消費マインドは更に悪化、臨時休業や営業時間短縮を余儀なくされ、極めて厳しい状況が続いております。新しい生活様式の浸透により消費者の生活スタイルも変化し、その対策のため各社が業態転換・新業態開発などの取り組みを行っております。また、2020年1～9月の訪日外国人旅行者数は前年同期比83.7%減少（出典：日本政府観光局（JNTO））しており、インバウンド消費も冷え込みました。

このような経済環境の下、当社は「日本のカルチャーを世界へ」という経営理念に基づき、「日本を感じるモノを作る」モノ事業と「日本の良さを体験していただく」コト事業の2事業の強化と、その延長線上にある新たな業態や事業の創出に取り組みました。

しかし、5月中旬以降順次営業を再開し、お客様と従業員の安全確保を第一に感染拡大防止対策に取り組みながら、新商品も投入しましたが、観光地を中心に来店客数が減少し減収を余儀なくされました。出退店につきましては、不採算店を中心にスクラップアンドビルドを進めた結果、当第3四半期累計期間において、出店が5店舗、退店が42店舗、業態転換が3店舗、当第3四半期累計期間末の店舗数は合計54店舗（前事業年度末比37店舗減）となりました。一方で、人員の再配置等による生産性の向上や固定費の削減に取り組み、販売費及び一般管理費は1,334,384千円（前年同期比28.4%減）となりました。

また、店舗の閉店等に伴う固定資産除却損20,095千円と減損損失45,590千円及び投資有価証券評価損39,879千円、投資有価証券売却損40,518千円、合計146,084千円を特別損失として計上しました。

その結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高1,012,741千円（前年同期比55.9%減）、営業損失680,264千円（前年同期は営業損失23,220千円）、経常損失は671,338千円（前年同期は経常損失16,128千円）、四半期純損失は792,724千円（前年同期は四半期純損失17,868千円）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(モノ事業)

モノ事業においては、採算性を再見積もりしてスクラップアンドビルドを進めました。その結果、当第3四半期累計期間末における店舗数は、〔かんざし屋wargo〕11店舗（前事業年度末比8店舗減）、〔The Ichi〕7店舗（同2店舗増）、〔北斎グラフィック〕13店舗（同16店舗減）、〔箸や万作〕7店舗（同5店舗減）、〔猫まっしぐら〕4店舗（同3店舗減）、合計42店舗（同30店舗減）となりました。その他、ネット通販、OEMサービス等も行っております。

その結果、モノ事業の売上高は776,967千円（前年同期比54.1%減）、セグメント損失は240,844千円（前年同期は238,228千円の利益）となりました。

(コト事業)

コト事業においては、着物レンタルがイベント自粛、訪日外客数の減少により影響を受けました。当第3四半期累計期間末における〔きものレンタルwargo〕の店舗数は12店舗（前事業年度末比7店舗減）となりました。

その結果、コト事業の売上高は235,774千円（前年同期比61.0%減）、セグメント損失は119,413千円（前年同期は48,109千円の利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前事業年度末と比較して568,994千円減少し570,765千円となりました。これは主に、現金及び預金が321,412千円減少、商品が125,425千円減少したことなどによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して95,825千円減少し804,833千円となりました。これは主に、有形固定資産が31,653千円減少、投資有価証券等の投資その他の資産が52,278千円減少したことなどによるものであります。

繰延資産は、前事業年度末と比較して748千円減少して352千円となりました。

以上により、当第3四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末と比較して665,568千円減少して1,375,950千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末と比較して15,586千円減少し580,624千円となりました。これは主に、買掛金が62,340千円減少したことなどによるものであります。

固定負債は、前事業年度末と比較して25,183千円減少して447,876千円となりました。これは主に、長期借入金が27,228千円減少したことなどによるものであります。

以上により、当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末と比較して40,770千円減少して1,028,500千円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末と比較して624,798千円減少し347,450千円となりました。これは主に、資本金が67,454千円増加、資本準備金が67,454千円増加、利益剰余金が792,648千円減少したことなどによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症が拡大している現状においては日々状況が変化しており、緊急事態宣言を踏まえた当社における一部店舗の臨時休業や営業時間短縮など、現時点では業績に与える影響が未確定な要素が多いことから、2020年12月期業績予想への影響を合理的に見積もることは困難であります。合理的な業績見通しの算定が可能になった時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	502,424	181,012
売掛金	138,079	53,327
商品	339,067	213,642
その他	160,188	122,783
流動資産合計	1,139,760	570,765
固定資産		
有形固定資産	225,358	193,704
無形固定資産	121,681	109,788
投資その他の資産		
関係会社株式	39,880	139,830
敷金	299,090	277,615
その他	214,647	83,894
投資その他の資産	553,618	501,339
固定資産合計	900,658	804,833
繰延資産	1,100	352
資産合計	2,041,519	1,375,950
負債の部		
流動負債		
買掛金	68,831	6,490
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	171,456	170,092
未払金	166,831	193,503
未払法人税等	6,189	9,895
賞与引当金	8,061	1,230
その他	74,840	99,412
流動負債合計	596,210	580,624
固定負債		
長期借入金	473,060	445,832
その他	-	2,044
固定負債合計	473,060	447,876
負債合計	1,069,270	1,028,500
純資産の部		
株主資本		
資本金	439,079	506,533
資本剰余金	410,549	478,003
利益剰余金	137,619	△655,029
株主資本合計	987,247	329,506
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△14,998	17,812
評価・換算差額等合計	△14,998	17,812
新株予約権	-	131
純資産合計	972,248	347,450
負債純資産合計	2,041,519	1,375,950

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	2,297,969	1,012,741
売上原価	458,095	358,621
売上総利益	1,839,873	654,120
販売費及び一般管理費	1,863,094	1,334,384
営業損失(△)	△23,220	△680,264
営業外収益		
受取利息	160	176
受取配当金	1	1,957
投資有価証券売却益	134	-
受取手数料	3,113	4,500
助成金収入	1,710	5,288
その他	3,797	1,756
営業外収益合計	8,916	13,679
営業外費用		
支払利息	917	2,182
為替差損	-	1,810
株式交付費償却	776	748
その他	130	10
営業外費用合計	1,824	4,752
経常損失(△)	△16,128	△671,338
特別利益		
固定資産売却益	-	281
新型コロナウイルス感染症による 雇用調整助成金等	-	32,182
特別利益合計	-	32,463
特別損失		
固定資産除却損	-	20,095
減損損失	9,624	45,590
投資有価証券評価損	-	39,879
投資有価証券売却損	-	40,518
特別損失合計	9,624	146,084
税引前四半期純損失(△)	△25,753	△784,958
法人税等	△7,884	7,766
四半期純損失(△)	△17,868	△792,724

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更)

当社は、棚卸資産の評価基準について、販売個数、仕入個数、及び回転期間が一定の基準を超える場合もしくは下回る場合に、定期的に帳簿価額を切り下げた価額をもって貸借対照表価額としておりますが、たな卸資産に係る収益性の低下の事実をより適切に財政状態及び経営成績に反映させるため、第2四半期会計期間より、帳簿価額を切り下げる判断基準を変更しております。

この結果、変更前の方法と比べて、当第3四半期累計期間の売上原価が33,199千円増加し、営業損失、経常損失、税引前四半期純損失はそれぞれ同額増加しております。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルスの影響)

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルスの拡大により内外経済は予断の許せない状況が続いており、先行きに対する懸念材料があります。当第3四半期累計期間においては、2020年12月頃までは外出自粛の影響が一定程度あると仮定して、固定資産の減損等の会計上の見積りを行っております。なお、将来における実績値に基づく結果が、これらの見積り及び仮定とは異なる場合には、当社の財政状態及びキャッシュ・フローの状況に影響を与える可能性があります。

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

当社は、2020年7月16日付で、佐野健一氏、株式会社グローイング、野坂英吾氏、田坂正樹氏から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ67,454千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が506,533千円、資本剰余金が478,003千円となっております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第3四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益計算 書計上額(注2)
	モノ事業	コト事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,693,458	604,510	2,297,969	2,297,969	—	2,297,969
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,693,458	604,510	2,297,969	2,297,969	—	2,297,969
セグメント利益又は 損失(△)	238,228	48,109	286,337	286,337	△309,558	△23,220

(注) 1. 調整額△309,558千円は、本社管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

営業活動から生じる損益が継続してマイナスで、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した店舗資産については、当該資産グループの帳簿価格を回収可能価格まで減額し、当該減少額を減損損失(9,624千円)として計上しております。なお、減損損失の内訳は、建物9,352千円、工具器具及び備品271千円であります。

減損損失の測定における回収可能性額の算定に当たっては、使用価値より測定しており、当事業年度において減損損失を計上したのものについては、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスになったことから、回収可能価格を零として評価しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益計算 書計上額(注2)
	モノ事業	コト事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	776,967	235,774	1,012,741	1,012,741	—	1,012,741
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	776,967	235,774	1,012,741	1,012,741	—	1,012,741
セグメント損失 (△)	△240,844	△119,413	△360,258	△360,258	△320,006	△680,264

(注) 1. 調整額△320,006千円は、本社管理費であります。

2. セグメント損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	モノ事業	コト事業	全社共通	計	四半期財務諸表計上額
減損損失	6,573	29,567	9,450	45,590	45,590